

第三百六十三回 青葉会

平成二十八年六月二十三日(木)

午後五時半〜八時半 丸紅来客食堂(談話室)

〈顧問〉

☆ 川合万里子 先生

〈選者〉

◎ 川口孤舟

〈出席者〉

今井紀久男 大林猛 柿崎忠彦 川口孤舟 久米五郎太 豊田ゆたか 中野一灯

山崎亜也 山内天牛

伊賀山そらお 後藤保明 小西弘子 小早健介 朱牟田恵洲 土谷堂哉 古田昇 宮内規雄

渡邊盛雄

赤田堅 安部眞希子 小川恭延 楠田彦十 庄司龍平 高橋敏郎 早川允章 福島正明

村田くに子 山本三恵

〈紙上選句〉

《互選句》

八点

☆ ◎ パナマ帽ひよいと摘(つま)みし會釈かな

孤舟 (眞・忠・彦・敏・ゆ・灯・亜・天)
亜也 (万・孤・五・灯・允・正・く・天)

(☆…中七の描写が軽快で夏らしい)

七点

☆ ◎ 膝で漕ぐ熊笹の径青嵐

一灯 (猛・万・孤・五・敏・亜・三)

六点

☆ 嘆(かゝ)声の夏雉子横切(よぎ)る青梅線

紀久男 (眞・忠・万・ゆ・灯・允)

(☆…「嘆声」という焦点をより際立たせたいので「夏雉子の嘆声…」では?)

孤舟 (恭・万・灯・允・正・三)

五点

☆ 己が影蹴りつつ進むあめんぼう

全 (眞・猛・万・ゆ・三)

☆ 壬生狂言さわりでひた止む団扇音

保明 (堅・猛・正・く・亜)

(五…季重なり? 灯…「ひた止む」↓「ひたと止む」では?)

四点

☆ 幸せの便り友からさくらんぼ

猛 (堅・忠・万・彦)

(☆…桜桃の贈物とはまことに幸せな便りですこと!!)

☆ 鱧づくし今宵の酒は止(とめ)難し

全 (堅・紀・万・允)

☆ 梅雨空や選挙のポスター皆笑顔

忠彦 (眞・猛・万・く)

(☆…三段切れにならないように「や」↓「の」。中七「選挙ポスター」)

☆ 紫陽花の風となるまでペダル漕ぐ

孤舟 (万・ゆ・正・三)

(☆…「漕ぐ」↓「漕ぎ」)

☆ 母の忌や天牛(かみきり)の斑(ふ)の美しき

弘子 (万・五・允・三)

(☆…「母の忌」と「天牛の斑」の所縁(ゆかり)を知りたい)

☆ ◎ 青蘆の陰の釣り人動かざる

堂哉 (万・孤・五・ゆ)

☆ おれおまえ呼び合ふ仲間青き梅

ゆたか (万・五・彦・龍)

(☆…「俺お前と呼合ふ仲間梅青し」)

☆ 目と眼合ふ鹿は遠目に夏の雲

全 (恭・万・彦・敏)

(☆…「夏雲や遠見の鹿と目と眼合ひ」)

オバマ大統領広島訪問

慰霊碑におり立つ双鶴風薫る

全 (堅・眞・紀・亜)

☆ ◎ 夜振火の真闇揺らせり瀬の水音(みおと)

一灯 (堅・万・彦・正)

(☆…「夜振火の揺らす真闇や瀬音急」。「せり」という完了形は避けたい)

☆ 五月雨や疎ましくても待ちいたり

猛 (紀・万・龍)

(☆…中七から下五は「五月雨」への情感であろるか?)

◎ 短夜や夢見重ねて白々と

全 (孤・龍・く)

☆ はな子逝く青葉の揺れる吟行日

忠彦 (眞・紀・猛)

☆ 時間かけ漢方煮出す梅雨の夜

五郎太 (忠・万・天)

☆ 中華街楼門の朱に夏兆す

恵洲 (猛・万・敏)

(☆…「楼門の朱に夏兆す中華街」)

三点

二点

- ☆ 盲導犬主従に譲るテラス席
(☆…上五↓「盲導犬の」)
- ☆◎ カヤツクの櫂の飛沫や青葉光
夏草や天に移ろふ熊本城
(☆…「天に移ろふ」城とはどんな描写であろうか？季語の夏草との所縁は？)
- ☆ 百合の香を閉じ込め棺の蓋とぞし
(☆…「百合の香を籠めて棺の蓋閉ざし」一句の中に「閉じ」の同意語を二度使わないこと)
- ☆ ジヤマイカのTシャツ羽織る梅雨晴間
雨滴(あましづ) 紫ピンク紫陽花の
五月閑長き御堂の千体仏
永祿と刻む灯籠苔の花(春日大社)
- ☆◎ 高みより総身とよもす滝の音
(☆…「総身」↓「総身に」)
- ☆ 薫風や子等駆け回るわが団地
稚鮎揚ぐ苦味からりと鼻に抜く
(☆…「抜く」↓「抜け」)
- ☆ 飴湯買ひ瀬戸を眺めつ渡船待つ(丸亀)
田舎から一月おくれと粽来る
(☆…「おくれと」↓「後(おく)れの」)
- ☆ 布製のバケツの中に蟹や貝
粽来たか九十六の叔父の声
紫陽花やシャンソン唱いポストまで
汚(けが)れなき山田の蛭ふぶきかな
(☆…「清らかな・・・」。俳句は超短詩なので上五に「汚れ」は避けたい)
- ☆ 「爽樹」創刊五周年記念祝賀会
- ☆ 首都圏に勢(きお)ふ結社の祭かな
青葉風オバマの折鶴喜ばれ
風薫る手つなぐ二人は中高年
毛虫取る妻は乙女に戻りけり
蛞蝓(なめくじ)は命の湿りありにけり
宿とれし祭で会おうとメール出し
落し文少子化進む身の回り
同じ日の緑を見たのか「はな子」逝く
(☆…「緑蔭を吟行中に「はな子」逝き」)
- ☆ 挨拶しなほ去り行かぬ揚羽蝶
夏座敷伏見の酒に世を忘る
夏木立煤けし回廊二月堂
籐椅子に寝て楽園の鳥のこゑ(バリ島)
白南風(しろはえ)の夢のギフトや星の砂
薫風に家を出で来し老夫婦
凌霄花(のうぜんか)高速脇になだれけり
コンビニに甘酒ありて味やさし
梅雨激し完全防備でごみを出す
耳もとに不気味な羽音夏は来ぬ
- ☆ 盛雄 (紀)
- ☆ 天牛 (万)
- ☆ 全 (天)
- ☆ 亜也 (万)
- ☆ 規雄 (万)
- ☆ 全 (孤)
- ☆ 昇 (万)
- ☆ ゆたか (万)
- ☆ 全 (龍)
- ☆ 健介 (正)
- ☆ 弘子 (忠)
- ☆ 全 (万)
- ☆ 五郎太 (万)
- ☆ 孤舟 (紀)
- ☆ 全 (灯)
- ☆ 忠彦 (万)
- ☆ 全 (万)
- ☆ 盛雄 (万・允)
- ☆ 全 (万・垂)
- ☆ 全 (万・紀)
- ☆ 全 (万・敏)
- ☆ 盛雄 (万・允)
- ☆ 全 (万・天)
- ☆ 天牛 (万・ゆ)
- ☆ 規雄 (万・敏)
- ☆ 亜也 (万・灯)
- ☆ 一灯 (万・孤)
- ☆ 保明 (万・龍)
- ☆ 堂哉 (彦・五)
- ☆ ゆたか (垂・三)
- ☆ 五郎太 (龍・天)
- ☆ 盛雄 (堅・忠・万)
- ☆ 一灯 (万・孤・彦)
- ☆ 恵洲 (紀・万・く)
- ☆ 一灯 (万・孤・彦)
- ☆ 盛雄 (堅・忠・万)
- ☆ 恵洲 (紀・万・く)

一点

●次回青葉会

七月二十八日(木) 午後五時半から八時半 丸紅 コンチエルト(談話室)

▲当季雑詠五句 投句二句 丸紅 コンチエルト(バンケットルーム)

八月二十五日(木) 午後五時半から八時半 丸紅 コンチエルト(バンケットルーム)

以上文責 紀久男

平成二十八年六月句会報

一 今回は天牛さん以下9名出席。投句も9名。万里子先生から頂戴しました絵葉書（梅雨見舞、はな子召天のこと等）や「爽樹」五周年記念の①祝賀会式次第、②「合同句集」、③前代表小山徳夫の句集「春港」、④「酒を詠む」俳句大会入選句等を回覧し乍ら、丸紅ビル建替えによる句会場探しなど話題にしつつ開始。

御覧のように、選者の孤舟さん、転職される亜也さん、ヴェテランの一灯さん、進境著しい猛さんが好成績でした。最後に亜也さんの御栄転を祝ってコンチエルトお薦めの「モエシヤンドンアンペリペアル」で乾杯。打ち上げました。

二 関係者近詠

天心の春月へ校歌もて別れ	万里子	戯れに風船買ひてもて余す	恵洲
新緑や草は濃緑木は淡緑	全	— NHKラジオ — 四月放送	西村和子選
墨堤の葉桜閑か深呼吸	全	葉桜や早やそれらしく新首相	全
老桜の実降るや母校の通用門	全	— NHKラジオ — 六月放送	允章
上水へぎしぎし枝垂れ余震また	全	ころころと雨を喜ぶ青蛙	全
点り合ふ枝垂れミモザと街路灯	全	若楓みどり映れる稚（やぎ）の顔	全
孫ほどの若き主治医と夕長し	全	山火事と見紛ふばかり大夕焼	全
花便り新人アナにふと詠り	眞希子	五月雨や山懐の大伽藍	全
妻と並む未信徒の夫復活祭	全	通夜帰りも居て何はさてビール哉	恵洲
志士の路地名のみが生きて犬ふぐり	全	七変化変化（へんげ）以前の無垢を愛づ	全
轉りや五拾五貫目力石	弘子	甚平や無事これ名馬を旨にして	全
自転車に凭れかかられ瘦せ躑躅	全	事故現場に小さき花束梅雨に入る	全
川二つ越えて頼みに花曇	全	— 「大鉄会」 — 六月	
喧噪の果てしおぼろや魚市場	全	丹波路の車窓燦々柿若葉	盛雄
菜の花の黄に濃淡の無かりけり	青史	愁ひさへ蒸発せんか五月晴	健介
髪しぼる海女の腋毛のうすきこと	全	五月雨もまた良きかなと老朋友	紀久男
膝の児のはにかみ愛（かな）し磯焚火	全	地震あとの軒下探る夕燕	盛雄
もの問へば海女三人の安房訛	全	鐘の音の梅雨に湿りし東寺かな	健介
昼の部はね春眠中の楽屋かな	紀久男	産土の青葉に用足す幼（おきな）かな	紀久男
柳亭市馬独演会		— きさらぎ句会 6月 —	
花よそこに聴き入る高座人形町	全	世界とは私の世界泉湧く	正明
朝ざくら法事日和となごやかに	全	更衣タグには日本製とあり	全
— 「萬緑」 — 七月号		夏草や押し込められてゐる野性	全
アメリカの一步踏み出す広島忌	昇	ソプラノの発声練習梅雨晴間	全
父の日や黄色き薔薇の宅配便	堂哉		

三 恵洲さんお薦めの又吉直樹・塚本裕樹「芸人と俳人」（集英社2015/5/30 ¥1,300）図書館で読み、成程面白く参考になりました。好句を抄出してみました。

寝（い）積むや追手は象に噛まれをり	直樹	寂々と柿の葉鮎の葉を重ね	裕樹
狂人は常人となる踊りかな	全	紙魚（しぎ）のぼりつめて天金崖なせり	全
血縁の讚美歌ひびく霜夜かな	全	投扇のごとく蟻螂飛びにけり	全
父の足裏に福笑ひの目	全	木枯やこころの涯の一樹まで	全
爪切りと消ゴム競ふ絵双六	全	南風を聴き尽さむと岬かな	全
朦朧と歓声を聞き浅蜷汁	全	猫じやらし海風じやらすばかりなり	全
静寂は爆音である花吹雪	全	新刊の栞ひも引く淑気かな	全
古（いにし）えの霊かも知れぬ黒揚羽	全	パイプ椅子ばたばたたたまれておぼろ	全

平成二十八年七月九日

紀久男記